

ミニ展示「戦後80年 あのとき新聞は何を伝えたか」1945年8月展示紙面リスト

1945年4月の出来事	新聞名	新聞日付	補足説明
B29、広島に新爆弾	毎日新聞	1945年8月8日	広島に原爆が投下されたことを伝えた記事。「敵の投下した新型爆弾は落下傘をつけ空中で破裂したもののごとくであり、その詳細については目下調査中であるが、その威力は軽視を許さぬ」とある。
ソ連・帝国に宣戦 九日零時	毎日新聞	1945年8月10日	8月9日、中立条約を結んでいたソ連が、日本に宣戦布告した。
長崎にも新型爆弾	朝日新聞	1945年8月12日	8月9日に長崎に原爆が投下されたことを伝えた記事。「詳細目下調査中なるも被害は比較的僅少な見込」とある。
聖断押し大東亜戦終結	毎日新聞	1945年8月15日	ポツダム宣言受諾に関する詔書が大きく載った、終戦を伝えた紙面。当局の要請により、詔書載せた新聞の配達には玉音放送以後にすることになっていた（当時の新聞は朝刊のみ）。
東久邇宮内閣成立す	朝日新聞	1945年8月18日	戦後最初の内閣として、皇族である東久邇宮稔彦王を首相とする内閣が成立した。在任期間は54日間で、歴代最も短命な内閣となった。
マツクアース元帥到着	朝日新聞	1945年8月31日	GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）のマッカーサー元帥が8月30日午後、厚木飛行場に到着した。同氏について「南方生活が長いわりには日焼けしていない薄赤い頬」「66才にしては若い」などと表現している。マッカーサーは、先遣部隊指揮官らと打ち合わせをした後、横浜のニューグランドホテルに入った。横浜には1200人が進駐するとある。
一日に六、七千足 靴修理班の店開き	朝日新聞	1945年8月5日	靴を大切にはきましょう このころ、東京の人たちは靴にも不自由していたようだ。都経済局資材課と東京都靴統制組合が協議し、8月4日から修繕が行われるようになったと伝える。組合所属の28社、2組計500人が都内38か所で店を開き、1日に6~7千の靴が修理されるとある。修理券が配布され、修理は遅くても3日間、費用は最高で14~15円程度だという。
「酒」今後どうなる 月二合七勺は確保 ビールはこの夏で勝利の日まで訣別	読売報知	1945年8月8日	勝利の日まで 最後の夏の生ビール 戦況が激しくなる中、「お酒はどうなるのか、飲めるのか?」。中には切実な人もいだろう中、大蔵省の主税局長に尋ねた。それによると… 「最小限度として1か月あたり2合7勺（1合180ml、1勺18ml）、1年にして約3升程度（1升1.8L）は一般家庭配給として確保するつもりだ」「ビールもこの夏が最後で、生ビールはもちろん瓶詰も勝利の日まで我慢してもらわねばならない。ただ、ビールは保存が効かないから、造り次第どんどん出しているし、ここしばらくは『最後の夏の生ビール』が相当豊富に回るはずだ」 お酒好きな皆さん、我慢できますか?
けふ連合国軍進駐 学徒、清掃に大童（おおわらわ） 灰燼の横浜、悩み多き設営	朝日新聞	1945年8月28日	急な連合軍の進駐に横浜市も困った 進駐軍を迎える準備を進める神奈川県。しかし、戦争で横浜市の大半が灰燼に帰し、水道、ガス、電気、電話に不都合が生じている。労務面でも労務者が散逸しており、困難な状況にある中、学生たちが連日3000人以上出勤して、運搬、清掃に当たっているという。このほか、連合軍の宿舎として指定された建物の居住者に対して立ち退きを完了することができず、さらに悪天候が続き、準備が進んでいないことが伝えられている。
第二放送も復活 ラジオ 米英物もどしどし採用	読売報知	1945年8月30日	娯楽放送に大きな期待 ラジオ第二放送は1931年、教育放送を充実させるために始まった。戦時中休止になったが、戦後もなく復活。今後の方向性について当時の日本放送協会の企画部長の声を伝えた。それによると… 「電波管制が廃止されるわけだから、当然第二放送が復活してくる。それに今までは放送時間を短縮してきたが、今後は相当戦前通り延長されてくることとなる。したがって一方に大衆受けのする娯楽を放送する一方、相当高度の教養ある娯楽の放送も出来るわけだ。聴衆者の少ないため捨てられていた純芸術作品なども復活してくるわけだ」という。